

1 月号 広報 みふ



町の花 ゆうがお

発行 栃木県壬生町 昭和54年1月15日



若 人

この写真をさしあげます
申込みは、企画課（2-1234内線50）へ



母親教室

とき 2月23日(金)

午後1時30分～3時30分

ところ 総合運動場管理棟

内容 1 妊娠5か月～7か月の方

2 妊娠中の保健

3 妊娠中の栄養

4 妊婦体操

持参するもの 母子健康手帳、ス

ラックス

三か月児検診

とき 2月14日(水)

午後1時30分～3時30分

ところ 総合運動場管理棟

内容 1 10月20日～11月19日まで

に生まれたお子さん

内容 専門医による斜頸、股関節

2月の納税

固定資産税

第4期分

国民年金

1・2・3月分

前報白など

持参するもの 母子健康手帳

三種混合予防接種

(破傷風、ジフテリア)

百日程

対象児 50年4月2日から51年4

月1日まで生まれたお子さん

で昨年4月から7月までに接種

出来なかったお子さん、および

51年4月2日から51年9月30

日まで生まれたお子さん、

とき、ところ

2月13日(火) 中央公民館

2月14日(水) 南・倉地区公民館

廃大引き取り日

とき、ところ

2月7日(水) 2月21日(水)

役場庁舎 午前9時10分まで

南支所 9時36分まで

福葉支所 9時50分まで

運転免許更新講習

2月9日(金) 中央公民館講堂

2月22日(水) 獨協医科大学

時間は、いずれも午前10時から

また、千生自動車学校における

講習会は次のとおりです。無料

2月1日(水) 午後4時～6時

2月4日(土) 午前9時～11時

2月7日(水) 午後4時～6時

2月10日(土) 午後2時～4時

2月13日(火)

2月17日(土)

2月21日(水)

2月25日(日)

午後2時～6時

午後2時～4時

午後4時～6時

午前9時～11時

登記事務は新庁舎で

1月22日から

宇都宮法務局主出張所(登

記所)の庁舎が落成しましたの

で、1月22日から新事務所(旧

登記所跡)へ移転します。

火葬場に待合室が

新設される

昭和52年7月1日から宇都宮市

と市営火葬場の利用協定を結んで

利用していますが、1月2日から

待合室が利用出来るようになります。

利用料金は2時間以内一、

四〇〇円です。

また、霊柩車は、町で民間業者

と業務委託を結んでいるので、

それぞれ利用する場合には役場住

民課へ連絡ください。

今月の人口

1月1日現在 対前月比

総人口 33,573人 +104

男 16,648人 +53

女 16,925人 +51

世帯数 8,903世帯 +16

鳥居家中興譜について

その三十二



215

城兵は、「生けんめいに防ぎ、鉄砲を雨のよりに盛んに撃たので、元忠の兵が当って損害を被った。元忠は、多くの兵に体をかかめて進むよう教えた。すると、城兵が撃った鉄砲の玉が皆、かぶとを越して飛び、体にあたらなかった。そこで、兵士たちは、そのすきにたちまち城の堀きわに着いた。そして、惣柄四右衛門が先頭に立つて堀をのりえと、後につづく兵がわれわれに堀をのりえのりこして敵を攻撃した。この戦で、一宮左太夫、安藤孫四郎、寺田嘉兵衛、小田切又三郎ら三十人が討死したが、攻撃は尚盛んで、も早、本城を乗取る有様となった。すると城代(城主のかわり)伊達兵衛と宮城美作守が降参を願い出た。そして、「徳川方の諸將はそれぞれ非常に働かれた。中でも鳥居の兵は抜群の勢で攻めた。これが私たちに一番の功がまんの出来ないうことであつた。鳥居軍のてがらは全く感激の他ない。だから鳥居方にこの城を明け渡すようにしたい」といった。そこで、五月十日元忠が城をうけとり浅野

彈正少弐(秀吉の家来)に渡した。秀吉は、非常に感激して、元忠が諸軍に先立ち、苦して城を攻め落したことは、この上なく立派である。いくさのてがらは、他にくらべるものもない感状を下された。又、家康もこれをほめて自分の判のある書つけを秀吉の感状にそえて下された。又、秀康(註「家康」一男で幼名の於義丸、後秀吉の養子となり結城家のむことになった)も元忠のてがらをほめて、二人でない立派なてがらである。と聞いて感心したと一封を下された。この三通の書つけが、皆、鳥居家にある。

尚、隠居するわの攻め口は、沼が深く又、巾が広くて攻めるのに困った。そこで、その辺の家から竹や木を切りとって筏のように編んで前の夜こっそり沼の上に並べ、むしろやかや、草の名ををしき、土をもって、兵をかきし、夜あけに城の堀きわに攻めよせたと昔の老人が言い伝えている。

武州八王子の城代は、北条陸奥守氏照の城代、近藤出羽守、狩野一庵、横地与三郎がなてこもつていた。元忠、親吉、忠勝が攻めよせたので城兵は降参した。五月十二日に城をとつた。

筆者 藍田